

# NEWS LETTER

## NEWS

### 府大<sup>アクター</sup>ACTR2025取材レポート

- 京都府立大学では、2004 年から、**地域貢献型特別研究（府大 ACTR）**に取り組んでいます。



#### 府大<sup>アクター</sup>ACTRとは？

ACTR は、Academic Contribution To Region の略で、「地域に貢献する学術研究」を意味します。京都府内の市町村、府内に立地する企業、NPO 等から寄せられた地域課題の提案に基づき、本学教員とマッチングが成立した研究に対して、学内外の審査員による審査会を経て決定しています。

### ▶ 文化遺産の記録化・記憶化による地域未来の創出に関する実践的研究

研究代表者：諫早 直人 准教授〔文学部〕

📅 2025 年 9 月 27 日（土）

📍 京丹後市久美浜町須田  
須田公民館／須田平野古墳

詳細はこちら



京丹後市の須田地区は「王家の谷」とも称され、未解明の古墳が数多く分布しています。その中の 1 つである須田平野古墳において発掘調査が進められており、今年度の調査結果を公表する機会として、公民館での報告会と現地での説明会が開催されました。

#### 須田公民館における成果報告会

須田平野古墳の発掘調査の進捗説明に続き、今年度に発見された遺構や出土品、それらから想定される当時の様子や今後の調査の展望について報告が行われました。地域の方々や歴史愛好家、歴史学科 OB、他大学の学生や研究者、関係機関の担当者など約 80 名の参加があり、遠くは高知や静岡からの来場者も見られました。会場には出土品が展示され、参加者同士が熱心に議論を交わしていました。来年度は古代以前の地層まで発掘が進められる予定であり、今後の成果が期待されます。

#### 須田平野古墳における現地説明会

成果報告会の終了後、参加者は車に分乗して須田平野古墳へ向かいました。車を降りてから山道を 2 ～ 3 分ほど登ると現場に到着。発掘調査は古墳の内部とその周辺で進められており、調査に携わる院生や学生たちが手分けして説明を担当しました。発掘の手順に加え、どのような遺物や遺構が確認されたのか、出土位置を示しながらの解説が行われました。また、調査で判明した古墳の特徴や、それらを踏まえた今後の発掘計画、さらなる調査の進展により期待される成果についても説明されました。とりわけ古墳内部は昨年度に比べて大幅に掘り進められており、今年度は誰でも古墳内部に立ち入ることができる状態になっていました。このような発掘現場を間近に体感できる機会は非常に貴重であり、参加者は解説に耳を傾けながら、目の前の遺構に古代の面影を重ね、思いを馳せておられました。



## ▶文化庁連携による地域歴史遺産の体験型世代継承 —住民参加による綾部市君尾山光明寺の石仏発掘—

きみのおさん

研究代表者：横内 裕人 教授〔文学部〕

📅 2025 年 10 月 20 日（月）

📍 綾部市君尾山光明寺

詳細はこちら



綾部市にある君尾山光明寺の参詣道において「石仏レスキュープロジェクト」が実施されました。江戸時代に寄進された「四国八十八カ所霊場石仏」は、長年の土砂堆積により埋没が進み、保存が危ぶまれる状況にありました。本プロジェクトは、こうした危機的状況を受け、地域の貴重な文化財を保全し、次世代へ継承することを目的としたものです。

当日は小雨の降る中、奥上林自治会連合会、上林中学校の生徒・教員、京都府立大学の学生・教員ら総勢 40 名が参加し、発掘作業に取り組みました。参詣道沿いの土砂を丁寧にに取り除きながら作業を進めた結果、39 体の石仏を無事に掘り出すことができました。掘り出された石仏は、2025 年 11 月 10 日に麓の公園内にある「二王の水車」へ安置されました。

上林中学校は「総合的な学習の時間」の一環として、事前学習や現地調査に参加していただきました。当日の様子は綾部市公式動画でも紹介され、参加者が協力して作業に取り組む姿や交流の様子が広く発信されています。このような取り組みは、地域文化の保存と若い世代への継承、さらには観光資源化を視野に入れた地域振興のモデルとなることが期待されます。



## ACTR その後

### ● 「城陽市特産物の文化的・国際的イメージの調査とそれを活用したプロモーションについての研究」

研究代表者：山口 美知代 教授〔文学部〕

📅 2025 年 10 月

📍 大阪・関西万博 関西パビリオン  
城陽ブースに動画をタブレット展示

詳細はこちら



## ACTR から社会実装へ

### ——令和 7 年度「産学連携実装化プロジェクト」(京都市) に 2 件が採択

#### ● 「京都産茶の茎由来カテキン類から開発した家畜飼料で食中毒細菌フリーの鶏飼育に挑戦する」

研究代表者：岡 真優子 准教授〔生命環境科学研究科〕



産学連携実装化  
プロジェクトとは？

京都市の社会課題の解決に取り組む大学研究者に助成を行うことを目的として設立された京都市の事業です。

#### ● 「地域養鶏の副産物を“食の資源”に一卵殻膜を使った高付加価値食品の開発」

研究代表者：田中 俊一 准教授〔生命環境科学研究科〕